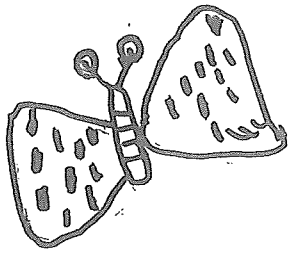
おやこ劇場通信

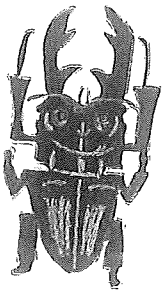
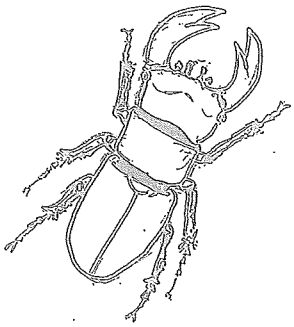
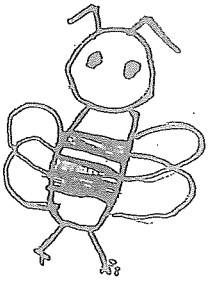
2019/10/24発行
206号

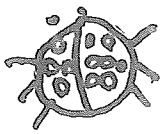
NPO法人おやこ劇場松江センター広報部　〒690-0874 松江市中原町71番地 TEL/FAX 0852-22-4937
https://www.facebook.com/oyakomatsue.　E-mail oyakomatsue@gmail.com

第190回合同例会　東京演劇アンサンブル　こどもの劇場

はらっぱのおはなし





２０１９年１２月７日（土）
１５：００開演（１４：３０開場）
島根県民会館中ホール

表紙　12月例会「はらっぱのおはなし」　・・・・・・・・1
◇　特集　東京演劇アンサンブル
　　太田さん　インタビュー♥　・・・・・・・・・・・・・・・・2-5
◇　『はらっぱのおはなし』実行委員会報告　・・・・・・・・・・・・・・6
◇　２０２０年 例会企画作品決定！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
◇　例会感想『はねるマレット うたうマリンバ』　・・・・・・・・・・・8
◇　ほっとちょこっとカフェ報告＆事業報告　・・・・・・・・・・・・・・9
◇　事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10-11
◇　おやこ”あるある”劇場♪・編集後記・ご支援ありがとう　・・・・12

特集「はらっぱのおはなし」
東京演劇アンサンブル制作
太田昭さんとの夕食交流会 報告

2019年10月19日(土)
@城西公民館

来る12月7日県民会館で上演される「はらっぱのおはなし」制作担当の太田昭さん(東京演劇アンサンブル)を囲んで、お話をうかがう交流会を開催しました。劇団の成り立ちとこだわり、作品の見どころなど、たっぷりと語ってくださった内容をご紹介します！

◎げきじょっこ時代のこと

川崎のおやこ劇場です。上に2人兄弟がいたので、0才から観ていました。母は運営委員などもやっていましたね。夜に会議があって出かける時の晩飯はカレー。だから子どもにしてみたらカレーの日は「ああ、今日は親がいないんだな」とわかるってことです。

キャンプも行っていました。今は本当に会員も減っちゃったけど当時川崎はデカくて、僕が中学生の頃がピークで24000人くらい会員がいた。低学年で年間24ステージ、高学年が6ステージ、合計年間約30ステージ。2カ月に1回例会があるから、見逃しがない。数は力で継続できた。その頃青年が1000人くらいいて、キャンプもダイナミックだったんですよね。3泊4日大きいキャンプ場を借り切って、一番多かった時は40班以上、500~600人のキャンプだったんじゃないですか。それが14劇場くらいに分かれていって、地域ごとに3~4つに分かれてキャンプもやるようになった。僕も高校生から青年になる時に新しい劇場に移って、最初は10人くらいだったかな。その最初のキャンプで大きな事故をしてしまった。かまどで小学校6年生の男の子が沸かしていたお湯を、中学生くらいの女の子が運ぼうとして、熱くて落としちゃって。それが男の子にかかった。看護師の青年とかもいたので、すぐ全部のホースを蛇口につないで全身に水をかけて冷やして、救急車で運ばれて。幸い痕も残らず何事もなかったんですけど、なんでその事故が起こったかということを僕らはすごく考えて、これは青年が足りないんだと。それで、拡大しよう!といって3年間で15人から100人くらいに増やしたんですよ。とにかく安全なキャンプを作るには青年の数だと。その時に増えた一人が今の奥さんなんですが。青年時代はガッツリ活動していましたね。単位も危ないくらい、昼間もずっと劇場の事務所に入り浸って。そんな学生が何人もいたので楽しかったですね。

それでも何となく就職を考えた時、ネクタイ締めるのは嫌だなと思っていて、一応高校の先生を目指していたんですけど、その時は公務員を減らす時代で採用もなく。就職浪人も考えつつ、ちょっと創造団体もいいなと思っていました。大学3年の時、1年で100本くらい芝居を観たんですが、そのくらい観るとだんだん自分の好みもわかってくるし、小さい子向けの作品も大人向けの作品も、両方やっている劇団に入りたいなというのがあって。青年劇場や文学座とかも観たけど、子どもの芝居はやってないしな…みたいな。ブークは先に一人、同じ川崎の青年が入っていて、先に人がいるのは嫌だなとか思ったり。早い者勝ちだから。その時東京演劇アンサンプルの「奇跡の人」という舞台を観て。これはヘレンケラーの話ですが、これにまぁ感動して、その場で「入れてください！」と頼いしたら「いいですよ、どうぞ来てください」と。それで決めたんです。

ヘレンケラーとアニーサリバンが主役の「奇跡の人」という作品の何が良かったのか？と思うと、芝居そのものも良かったんだけど、舞台装置の小道具が100点くらいあるんですけど、全部ヘレンが触るものしか置いていない。なぜかというと、ヘレンは目が見えないので彼女が触ったものしかその場には存在しない。ヘレンにとってそれ以外は存在する意味がない。例えばドアだけは置いてあるけど壁はない。そうしてヘレンが触るものが100点くらい置いてあるんだけど、その転換が見事なんですよ。出演者が7人くらいで裏方が10人くらいいるわけ。結構ダイナミックな転換をするのが感動的で、僕は芝居を作る中で役者じゃない人たちの呼吸、息づかいが聞こえるような舞台だったことに一番感動したのかな、ということです。そういう芝居を作る劇団はちょっといいなと思って。その時演出をしていた広渡さんという方に魅力を感じて、やっぱり入れてほしいなと思いました。でも広渡さんが当時67歳くらいで、役者だと入って2年間は養成所がある。70近くなると先がないなと。役者に興味があったわけじゃないし、制作だと1年目から一緒に仕事ができ

るので、最初から制作に入れてくださいとお願いしました。その時広渡さんに「制作というのは劇団の顔だ」って言われたのを今でも覚えていて「『どういう劇団であるか』ということを形作るのは制作の仕事だ」と。制作というのは劇団の一番表に出る部分でもあるので、こうしてみなさんにお会いする機会も多いですし、突破口としてもらえたらと思います。

◎東京演劇アンサンブルについて

日本で唯一ブレヒトの演劇論をやっている劇団です。うちの劇団はもともと俳優座という劇団の養成所の3期生が1954年に「3期会」という名前で最初に作ったんです。3期会の有名どころでは3バカトリオと呼ばれた愛川欽也さんや入江洋祐さんなどがいますが、みんな亡くなって創設メンバーはもういないんですけど、その3期生の中でロシアの作家チェーホフの「カモメ」という作品を勉強する会というのがあって、いつかその「カモメ」を上演したいという人たちがつくった劇団なんです。「カモメ」は老人まで出てくるような作品で、当時愛川さんたちは10~20代ですぐには上演できず、1960年代になってやるんですけど、他の作品からやっていくうちに出会ったのがベルトルト・ブレヒトというドイツの劇作家なんです。

◎ブレヒトの演劇論

ブレヒトは19世紀の終わりに生まれて20世紀に活躍した作家ですが、彼が出るまでの演劇は本当に全然違ったもので、ブレヒトは現代演劇を作り変えた人なんです。ドイツといえばその頃ナチスが台頭してくるんだけれども、ナチスはユダヤ人を迫害したことで知られていますが、実はそれはあとの方のことで、最初は思想犯なんですね。ナチスに反対する人たち、それから障害者、同性愛者、この辺を先に捕まえて虐殺する。そのあとユダヤ人なんですよ。その最初の思想犯のナンバー1 にいたのがブレヒトなんです。ナチスにとって、とても嫌な劇作家だったんですね。ブレヒトはナチスが政権を取ったその夜にドイツを逃げてコペンハーゲン、デンマーク、それからシベリア鉄道でアメリカへ逃げていく。それは彼自身が自分がヤバいことをわかっていたし、奥さんも女優でユダヤ人なんです。アメリカに亡命して第二次世界大戦の終戦を迎えるんですが、その間にアメリカで書いた「ガリレオの生涯」という作品があって、それは科学者の選択を意味する作品です。ガリレオの時代、キリスト教は地球が中心で世界が回っているという「天動説」を教えていたんですが、彼はそうじゃないことを知ってしまった。しかし発見するということはキリスト教に反対することになるので、彼は犯罪者になるわけです。それでガリレオは最後に「やっぱり地球は動いていなかった」と持論を撤回するんです。最初ブレヒトはそういう風に書いていたのですが、アメリカが広島に原爆を落としたことで、最後を書き換えるんですね。芝居の最後、「国境を超える場面」という有名なシーンが書き加えられるんですけど、ガリレオの弟子が「ガリレオの元では正しい科学者になれない。僕はもう外国に出ます」と言った時、ガリレオが地動説の書類を全部その若者に渡すんです。それでガリレオの思想が国境を越えていく、というシーンが書き加えられたんです。つまり、「原子力を扱うのがどういう人間か」によって、本当に大量破壊兵器になるということを知ってしまったブレヒトが、ガリレオの選択を変えたんですね。今も同じだと思うけど、原子力という力の持ち方が非常に揺らいでいる。使う人によってどれだけ価値が変わるかということを考えて、ブレヒトは批判的だった物語を書き換えたんです。今世界中で上演されているガリレオは、そのシーンが足されています。

でも結局彼はそのあと終戦後に、アメリカも追い出されるんですよ。レッドパージという、共産主義者をやり玉に挙げて裁判にかけた。有名なのはウォルトディズニーがかなり仲間を売ったということ。ディズニーがなぜ有名になったかというと、ほとんどの仲間を共産主義者だと言って裁判にかけて、彼はのし上がっていくんですね。これは有名な話で、映画にもなっていますから。そういうことがあって、ブレヒトは結局ドイツに戻る。その頃ドイツは西と東の2つに分かれていて、彼は東ドイツを選ぶ。やっぱりコミュニズムなんです。ところが東ドイツには秘密警察があって、ソビエトみたいな監視社会です。そこで彼はベルリンアンサンブルという劇団をつくり、劇場を建てて、そこの芸術監督として活躍していくんですけれども、結局そこで仕事をしていくためには東ドイツ政府を批判できないんです。でもむちゃくちゃムカついているんです。そこで何をするかというと、「わからないように書く」ということをやるんですね。だから終戦後東ドイツに戻ってからのブレヒトの戯曲はとてもわかりにくいので、難しいと言われる。それが僕らが大好きなブレヒトなので、「アンサンブルの芝居はわかりにくいよね」って言われちゃうんですけど、僕らが、というよりブレヒトがわかりにくく書いている、というのが現実です。ブ

レヒトはそのまま最後までベルリンアンサンブルで仕事を全うして、東ドイツが解放されるのも知らないままでした。僕らの劇団はそのブレヒトに憧れて劇団名もアンサンブルに変え、6 月までいた今までの芝居小屋もブレヒトの名前を使っていました。とっても影響されているんです。

じゃあブレヒトはどういう人か。ブレヒトの言葉で言うと、彼以前の演劇の仕事はすべて「同化作用」だった。その意味は、演劇に限らず舞台芸術は金がかかる。チケット収入だけで芝居はつくれない。そこでどこかからお金を引っ張ってこないといけない。その相手、つまりパトロン＝スポンサーの言うことは聞く。つまり、今いかにキリスト教が正しいか、今の政治が正しいか、この政党が正しいか、っていうことをちゃんと芝居で声に出して言わなきゃいけない。2 時間サスペンスドラマで日産がスポンサーだと、絶対に犯人は日産に乗らない。正義の味方が日産で、犯人はアウディに乗っていたりするわけですよ。そういう風にできている。だけどブレヒトが出てきた 19 世紀というのは、産業革命が起こって、学校ができて、少年たちが働かなくて済む、識字率がガッと上がる、優秀になる。そうなると「あれ？政府が言っていることは正しいと思わないぞ」という人が出てくるわけです。そういうときの演劇は、もう「同化作用」だけじゃ足りないんじゃないかと。そこでブレヒトが始めたのが「異化作用」です。主人公に全部感情移入していくのではなくて、客席にいる自分というものが一瞬「あれ？この時代にこの芝居はどうなんだろう？」と考えるのが現代の芝居ではなかろうか、と言ったんですね。これが「ブレヒトが現代演劇を変えた」ということなんです。

もう一つ言うと、わかりやすいのがブレヒトの「街頭の場面」という短い戯曲。A さんの車と B さんの車がぶつかった交通事故がありました。警察が来て事情聴取すると、A さんは「私はスピードも出していなかったし、信号も守っていた」と言うし、B さんは「私の方が青でした」と言う。それぞれ聞いても、どちらが悪いのかわからない。ところがこの事故を C さんが目撃していた。警察が C さんにどんな事故だったかを聞くと「A さんがブレーキを踏んでいなかった」と。第三者の C さんから話を聞くのが、一番事故を再現できるわけです。ブレヒトがやり始めたのは、こんなたくさんの「場」で作品をつくること。ブレヒト以前は A さん・B さんの立場でしか作品は書かれてこなかった。ところが C さんの立場というのが現代演劇の仕事じゃなかろうか、ということをブレヒトが始めたんです。今みなさんが出会っている芝居は C さんの立場が多いと思う。古典のギリシャ悲劇とかシェイクスピアだと、A さんが自分が正しいことを 20 ページも使って、こんな長セリフ喋るでしょう。こんなの必要ないですよね。A さんが正しいか正しくないかではなくて、「『何がここで起こっているのか』を舞台に載せることで、一緒に今の時代を考えましょう」というのが、ブレヒトがやったことなんですね。この思想がヒトラーやナチスにとって、とても危険だったということです。客観的に政治を見られたときに何が起きているかということを国民が理解したら、自分たちがヤバい。だからブレヒトを排除して、その間に法律を変えて、選挙のない、できない国に変えていくわけです。だから敵も頭がいい。今、日本がそこに近づきつつあります。僕らがブレヒトを好きな理由は、まさにそこにあるわけです。C さんの立場から語って、終わったあとに「じゃあ今の時代をどうしよう？」っていうことを一緒に考えられたらいいなと。だから「戦争反対！」ということを思っていたとしても、その立場だけで書くのではなくて、「~とはいえ…」ということ。ブレヒトの有名な「肝っ玉おっかあとその子どもたち」という戯曲は、家族を守るために武器を売るお母さんの話なんですね。とてもシュールです。自分の子どもの命を守るために、人を殺す兵器を人に売りつける。結果、子どもはその武器で殺されていく…というような皮肉なんです。だけど現実はそうなんだと。そしてそこに込められた想いは「戦争反対」なんです。それをわかりやすく書くのではなく、ひとつ一緒に考えられる時間が必要、というのが僕らがやりたい仕事かな、と思っています。

◎東京演劇アンサンブルの演技の特徴

もう一つ、うちが変わっているのが演技の質。表現の技術が淡白なんです。今日本で言われている演技論って、「わかりやすく感情を表現するのが良い」ということで、特に子役なんかだと「すぐに泣ける子役が良い」みたいな。「『泣いて』というと 10 秒で泣ける子がいい」というような。それも確かに技術なんですけど、じゃあその子は何で泣けるかというと、例えば昔飼っていた子犬が死んだことを思い出すといつでも泣ける、とか。でもその子は、死んだ子犬のことを思い出して泣いているわけで、戯曲にはほかに泣く理由が書いてある。本当に必要なのは、この戯曲の登場人物が「なぜ泣いたのか」ということが観客に伝わることであって、子犬の涙をみたいわけじゃない。そこが演技の技術。僕らは「どうしてこの本にはこういうことが書いてあるのか？」ということをすごい時間をかけて考える。普通の劇団はたぶん読みに 1 費やすとしたら、立ち稽古が 5 とか。うちの劇団はイーブン。半分はとにかく読みに時間を使います。何が書かれているか？ということにすごく時間を使います。その中で例えば今のシーン、泣けないのだとしたら戯曲が悪いのか？読み込みが足りないのか？それを徹底的に洗い出すことに時間を使う。そういう作り方しかできない、変わった劇団。不器用なんです。やっぱり作家を信じて、どういう風に書いてあるか？ということにすごくエネルギーを使う。そうすると過剰な演技はしない。昔は「突っ立ったまま棒読みする劇団」とか言われたりしましたけど。まあ、10 分くらいすれば慣れてきますから、そこは我慢してもらって（笑）

◎はらっぱのおはなしについて

2013年に作った作品なんですけど、苦節6年！ついに来ました。ありがとうございます。

最初のきっかけは2011.3.11に震災があって、その翌年沖縄で国際演劇フェスティバルがあったんです。そこに世界の演劇人が集まる時、「この一年、日本の児童演劇は何を考えてきましたか？」という宿題が出て…その役が僕に来て、どうする？って。じゃあ何か1本作品創ろう！ということで、篠原久美子さんがあたためていた企画を子どものための芝居に書き換えてもらってできたのが「空の村号」。あれが2012年の夏に沖縄でやるためだけに作ったんだけど、おかげさまで日の目を見て売れた。その時、篠原さんの想いがすごく良かったし、初めて一緒に仕事をして彼女の劇作家としての力を垣間見て、「ああもうちょっと一緒に仕事してみたいなあ」と思って。彼女は高学年向けの作品しか書いたことがなかったから、じゃあちょっと低学年向けの作品を一緒にやらない？と誘って、うちの劇団がいつかやりたい児童文学を20冊くらい篠原さんに送って読んでもらって、その中から2冊選んだうちの1つがこの「はらっぱのおはなし」でした。

「はらっぱのおはなし」はいろんな虫の話のオムニバス。もともと松居スーザンというアメリカ人の女性が、日本人と結婚して日本語を勉強して、子どもができた時に日本語で子どもに話しかけたい、物語を喋りたいという想いで書いたのがこれなんです。シリーズで3冊くらいあります。だから子どもに寝物語で話すおとぎ話なんです。それをアメリカ人が書いたので、わかりやすい言葉で書かれている。劇団で最後にこの企画を通すか？やるかどうか？になった時、問題になったのが、僕らにはしてはちょっと毒がないよね、と。全部いい話なんですよ。篠原さんはそこを「対立と葛藤がありませんね」と。それ！さすが劇作家。言葉が違う（笑）それで篠原さんに毒を足していただいて。それで虫のいくつかの話を一夜物語にしてもらって、その中に人＝虫の生き死にがテーマになっていますので、そこにクワガタ君の葛藤と成長が見える。そこが原作にない部分だと思いますね。それが篠原節だし、なおかつ菊池大成という音楽家がおもしろい。最初に信頼できる脚本が来て、一週間くらい稽古があったんですけど、そこでたくさんある歌を「自分たちで考えてきてよ」と役者に振って、役者たちがアカペラで歌う発表会をやって、それを菊池さんが楽譜に落として。それがみなさんが聴く歌にほぼなっていますので、同じ作曲家がつくったとは思えない音楽なんです。これはブレヒトが許さないやり方。彼は役者が気持ちよく歌うのを許さない演出家なんですよ。ところが「はらっぱ…」に限ってはそこが解禁されているので、みなさんのびのび歌っていますよ。

もう一つは出演者全員が必ず何か楽器を演奏する。しかも、アコーディオンとギターとピアニカ以外は楽器の名前も知らないものばかり演奏します。オリジナル楽器だったり、ちょうど公演があったルーマニアやモルドバで買った、見たこともない楽器とかも採用されていて。手作り楽器とか、いろいろ創意工夫をこらした全部で30弱くらいの「楽器っぽいもの」が舞台にありまして、生演奏。マイクも音響も使わない。効果音も舞台上の見えるところで楽器たちが出します。

あと見どころとしては、2013年初演当初はまだほかのどこもやっていなかったプロジェクションマッピング。これもきれいです。ダンスカンパニーの高橋啓祐さんにオリジナルの映像をつくってもらって。最初にシーンで出てきた人間が虫に変わっていくところで、人は小さくなれないので、バックを大きくするんですね。映像を効果的に入れつつ、表現するところから入っていく。体育館での公演は照明が大変で、それをプロジェクションマッピングを使うことで照明を省略するために導入したんですね。ホールなら全然関係ないんですが…うちの劇団としては最小の作品なので新しい取り組みもあります。

あとは、モンシロチョウの一輪車が上手。高校生の時に一輪車のペアダンス競技で日本一になっているので。チョウの舞を一輪車で表現している。だから終演後小さい子たちはみんなチョウのところへ行きますね。オニグモは避けられて誰も行かず、カナブンオヤブンは大人に人気ですね。

（文責：森）

ご自身の経験から劇団の成り立ち、作品の見どころまで熱く語ってくださった太田さん！

ありがとうございました！

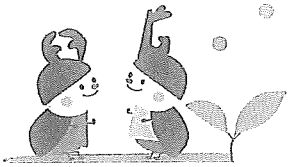
「はらっぱのおはなし」楽しみになってきました～！

12月7日（土）　　１９０回合同例会

音楽劇 はらっぱのおはなし 準備進んでます♪

東京公演を観た感想が届きました(^^♪

（元会員：竹田　遥）



芝居の始めにばさりと大きな葉っぱが落ちてきて、その一瞬で私まで虫たちと同じ大きさで原っぱにいる気分になりました！

他の虫を食べて生きていることで周囲から嫌われているオニグモ爺さんが、生きていく辛さを噛みしめながらも原っぱで生きる命を愛おしく思っている姿、そして、ただ悪ぶっていたバッタ３兄弟に「真のワルとは何か」を説き、自らの正義を貫いて行動するカナブンオヤブンのカッコよさが印象的でした。

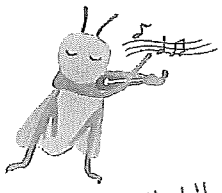
ヤンキーなバッタ達のラップ、エレキギターをかき鳴らす
ロックなカナブン、しっとりと原っぱの情景を歌うオニグモ
など、音楽がそれぞれのキャラクターにぴったりで聴いていて
楽しかったです。ぜひ松江のみんなと観たい作品です。

※この例会は、県民会館と共催で実施します！

実行委員会報告【実行委員　理事・代議員】　実行委員長：中島、副実行委員長：青戸・神田

●当日までの取り組み
- チラシポスター作り（県民会館）
- チケット作り（古志原・法城生）
- 看板(乃木)
- プレゼント（朝白雑）
- 当日パンフ作成（広報部）

●当日の役割
- 受付（事務局・竹田）
- 会場係（鑑賞部）
- もぎり（内中原）
- お約束（古志原）
- プレゼント渡し（朝白雑）
- 販売（財政部）
- カフェ（有志）



当日、わくわくできるような会場づくりも進めています
お楽しみに！！

※ 一般チケット発売　10/5 ～ 事務局及びプレイガイド

『はらっぱのおはなし』会場づくり 進んでいますよ～♡

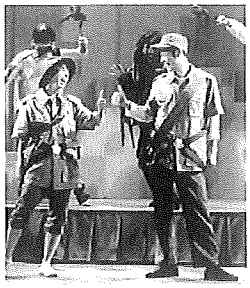
ホール前を子どもも大人もワクワク♪するような空間にしたいなと考えています。
「会場を虫たちのいる森林に入っていくような感じにしたらどうかしら!?」
「折り紙で作った虫捕りしよう！」
「虫捕りするときのカゴを自分で作ったらどう？」
どんどん楽しいイメージが膨らんでいます。
会員のみなさんに虫捕り用の折り紙の虫たちを折ってもらうようにお願いしたところ、
すでに目標数の 400 匹が集まりました。
会場に飾る葉っぱ、木の幹などの製作が着々と進んでいます。どんな会場ができるかな～♪♪
一緒に会場づくりに参加したい！という方、事務所までご連絡ください♡　　青戸

ありがとうございます！

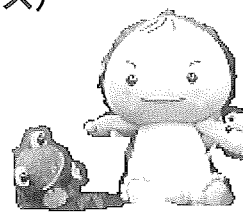
2020年度例会企画　決定！！

2020年10月
合同　K129（芸能）
ジンマサフスキーの
サイレントコメディマジック
（ジンオフィス）

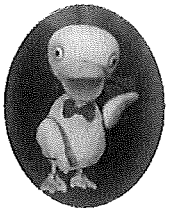
2020年12月
合同 K233（舞台劇）
このゆびとーまれ
（劇団風の子九州）



2021年3月
低 K484（人形劇）
どんどこももんちゃん
（むすび座）



高 K392（人形劇）
トレテツクパレード
（ココン）



2021年5月
低　K375（人形劇）
おきゃくおことわり
（クラルテ）

高　K060（音楽・語り）
アラビアンナイト
（猫じゃらし）

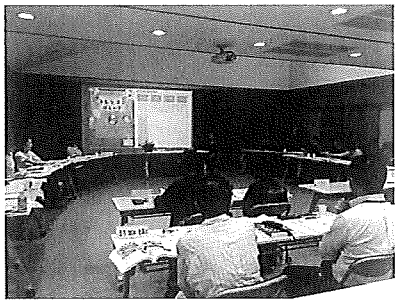
例会を決めよう会無事に終了しました！

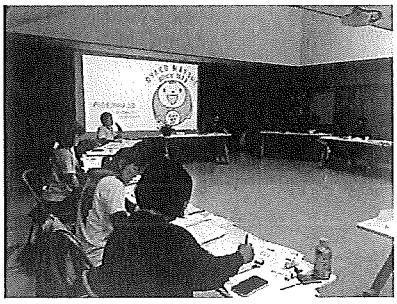
10月19日(土)、2020年度の鑑賞作品を決める総会を開催しました。
「例会を決めよう会」は、おやこ劇場松江センターがとても大切にしている会です。
来年度、どんな作品を観るのかを、会員が話し合って決める会です。
それはとても楽しく、とても悩み、とてもエキサイトする1日なのです。

この夏、鑑賞事業部の皆さんが中心になってアンケートが実施されました。
それをもとに、練りに練られてつくられた例会企画案から最終決定します。

鑑賞事業部の皆さんから、作品のプレゼンがありました。
みなさんの熱意に心が動かされます。なんと今年は、参加できないけれど、動画でプレゼンというサプライズもありました！
プレゼン後は活発な意見交換が行われました。
参加者が悩みに悩んで投票しました。

投票の結果は、みんな悔いはありません。期待を込めて決めた作品ばかりです。
これから会員と創造団体と一緒に作り上げ、盛り上げていきましょう！！





参加された方の感想です！

今回も、色々な意見を出し合えて良かったです。
2020年も楽しみです。

鑑賞部の皆さん、今日までの準備、お疲れ様でした。ビデオレターも良かったですよ。
どれも魅力的で、自分が選んだのではなくても、楽しみです。
みんなに良い作品が届けたいと、意見を出し合って選ぶ、この決めよう会、本当に良い会だと思います!!また、さらに作品を盛り上げていきましょうね～！

今回ほど、投票に悩んだ例会決めよう会はありませんでした！本音は、どっちも見たい!!選べない!!「かあちゃん…」「アラビアンナイト」も迷った～。
初参加の方も「楽しかったからもっと沢山参加したらいいのに」って言われてましたね。参加人数多いと、もっと紛糾して、接戦で面白い会になりそうですね。
何はともあれ、鑑賞部の皆さん、お疲れ様でした！

例会感想　報告

第189回合同例会　松江市民文化祭事業

マリンバ・カンパニー

はねるマレット うたうマリンバ

2019年10月4日(金)
19:00開演(18:30開場) プラバ大ホール

おどり おもしろかった

ひでみ ゆか

ひざをたたくのが
おもしろかったよ！

ふうちゃん♡

さい後(アンコール)とはじめにたたいてたさくがおもしろかっただです

ごとうあい

マレット

かおる

今日はすてきな えんそうありがとうございました。
手がすごく早くうごいていて とてもきれいでした。
これからもがんばってください。(塩毛千智　小6)

私はもともとアメリカンパトロールがすきだったのですが、生できいたことはなく、今回生で、マリンバで聞けたのがすごくうれしかったです。（ペンギン　中1）

私は音楽とても好きだけど、上手にできなかったけど、今日見ていて、みんなとても楽しんでひいていたので、私も楽しんで音楽できるようにしてみたいと思いました。どの音楽もとても　ここちよいひびきで、なつかしい感じもしました。めっちゃおもしろくて楽しかったです。（末吉愉気丸　中1　女性）

知っている曲が、マリンバ 1 台で全く別の音楽になっていて、びっくりしました。　素晴らしかったです。
また、松江に来てください。（ドラゴン　中3　男性）

どの きょくもさいこうでした。
またきてください

シロクマ

みんな息ぴったりで、とてもすてきでした。
また聞きたいです。(祐源　小6　女性)

トレモロで演奏されるところや、２本持ちでひくところなど、絶対難しいよ！と思って見ていました。これからもがんばってください。！！
私はもともとアメリカンパトロールが好きだったのですが、生で聞いたことはなく、今回生で、マリンバで！！聞けたのがすごくうれしかったです。（ペンギン　中1　女性）

事前ワークショップを開催しました。

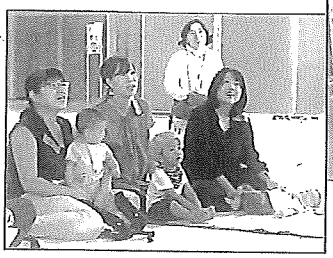
マリンバ・木琴を楽しもう♪♪♪♪♪

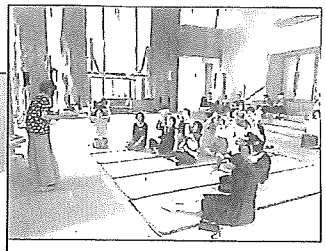
2019年9月16日(祝)15：00～16：30
内中原小学校　はちみつホール
　講師　　成瀬夏希さん（山陰フィルハーモニー管弦楽団打楽器奏者）
　テーマ　「マリンバのことを音楽の先生よりも詳しくなろう！」

マリンバの発祥地、歴史、仕組み、マレットの種類を学び、ピアノの伴奏でマリンバの演奏を聴かせて頂きました。子どもたちは生で体感できるマリンバの音に、真剣に耳を傾けていました。実際に、参加者が木琴をたたいての合奏も行われ大満足に終わりました。

ほっちょこカフェ 報告

坂野知恵さん わらべうたライブ～♪





9月25日(水)
11組の親子、24人参加

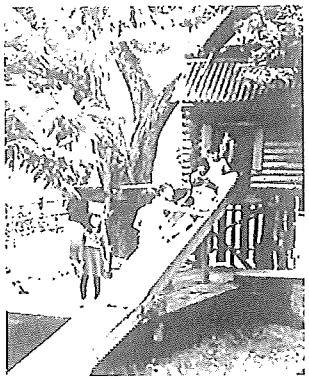
東京在住の坂野さんをお招きして、わらべうたで楽しみました♡
わらべうたの優しいゆったりした雰囲気の中で親子でふれ合ったり
絵本や人形も出てきて、子ども達もあきることなく、坂野ワールドに引き込まれていました!!
手づくりとんぼが飛んできて 0才の赤ちゃんも大喜び♡
お母さんも癒され、幸せな時間だったと感想あり。
最後は坂野さんを囲んでのティータイムでお話しもはずみました

開催事業報告　2019.7～10月

≪おやこキャンプ≫

◎　2019年7月27日～28日（土・日）かみくの桃源郷
参加者；47名

キャンプ一週間前には雷の予報でしたが、当日は見事に晴れました！
今年も赤ちゃんから大人まで、幅広い年代が集まりました。
子ども達に大人気のスイカ割り。夕食はまき拾いから始める
カレーとバーベキュー、デザートのさつまいもと焼きマショマロも絶品♥



お皿洗い、まき拾い、虫取り…。子ども達も優しい眼差しの中で、たくさんの経験をしました。
キャンプファイアーでは、火の神様(子ども達)が運んだ火を、各家族がトーチで受けとり、神聖な気持ちになりました。
その後は、火を囲んでみんなでレクリエーション。親密な気持ちが高まりました。
朝ごはんは、前日に松江で切っていただいた竹を使った流しそうめん。
朝ごはんとは思えない贅沢な時間です。
それぞれがいろいろな体験を味わい、「生きてるって素晴らしい」
「仲間と過ごせるってなんてステキなんだろう」と思われたのではないでしょうか。
そうだったら嬉しいなと思っています。

実行委員長；高橋 朋子

開催事業報告 2019.7～10 月

≪夏休み子ども広場≫

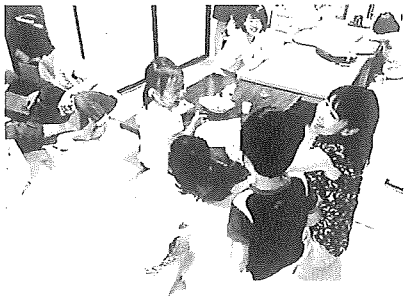
◎2019 年８月２日（金）　おやこ劇場松江センター事務所＆宍道湖畔
参加者； のべ　37 名

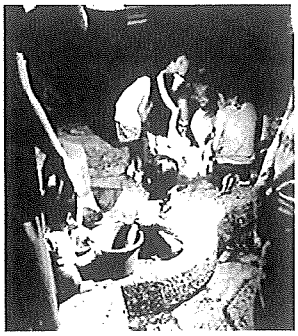
夏休み、子どもの居場所になったらいいね、ということで「夏休み子ども広場」開催しました。

まず、事務所で折り紙の虫づくり。12 月７日島根県民会館での例会『音楽劇　はらっぱのおはなし』の会場を飾るためです。
『はらっぱのおはなし』の歌も、みんなで練習しました(^^♪

夕食のカレーは、子ども用の甘口と大人用の激辛カレーを用意。

ほぼ初対面の３～4 歳児も意気投合し、一緒に絵本を読んで、楽しくてたまらない様子でした。





そして、おまちかね、夜の宍道湖でのエビ取り！！
子どもたちも網ですくえます。モロゲエビと手長エビが大漁でした！
3 歳児たちは、最後もうバケツの水浴びになっていました。
もう帰るよ～と言っても、もっと一緒に遊びたくて涙のお別れをしました。
子どもの居場所と言いながら、大人も癒されてリフレッシュ。
子どもたちが安心してリラックスできて、親もゆったり過ごせる居場所になりました。

理事長；　中島 紋子

≪子どもキャンプ≫

◎　8月 11 日～12 日（日・月）忌部自然休養村
参加者； 子ども 24 名・青年 20 名

第 39 回子どもキャンプ！
朝８時だというのにもうギラギラの太陽。
恒例のチクサクコールのあと、
キャンプ場までバスと徒歩で向かいました。
どんな２日間を過ごして帰ってくるのか、
親はワクワク、ドキドキ。

酷暑の中でしたが、みんな元気で帰ってきました！
公民館でのごくろうさん会では、
お母さんたちの持ち寄りのごちそうが並び、
一言感想を言うコーナーでは、青年が子どもひとりひとりの様子を語ってくれました。
遊びながら、お料理しながら、子ども達のいろいろな面を見てくれていたのだなあと感じました。

最後に、Ｔシャツにメッセージを寄せ書き。
１回目のキャンプ会議の時とはくらべものもにならないくらいみんな仲良しになっています。また来年も参加したいとみんな言ってくれていました。
子どもたちを見守ってくれた青年たち、本当にありがとうございました。　理事長；中島 紋子・事務局；藤井 浩子

≪子育て支援部　こどものことを話そう会　大ママのクリスマス🎄ブローチ作り≫

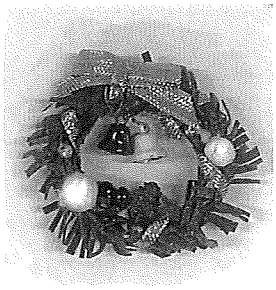
◎　2019年9月20日（金）・21日（土）10：00～12：00　おやこ劇場松江センター事務所

参加者；20日　11名　・21日　11名

理事の勝部万里子さんのお母様（大ママ）を講師にお招きして、一足早くクリスマス🎄気分。
ワクワク💗する時間をみんなで過ごしました。

大ママが材料も道具もすべて準備してくださり、ブローチ作りにみんなで挑戦！もうその楽しい事といったら！難しい作業のところもユーモアたっぷりに教えてくださいました。

少しうまくできないところがあっても、「だいじょうぶ　いいわね～　とってもいい！　ここはこうするともっと良くなるわよ！」。
子どものような気持ちになって



夢中でみんなで作りました💗　こんなふうに声をかけてもらうと、こんなにうれしくて、たとえうまくできていなくても、こんなに幸せな気持ちになれるんですね。なんかせかせかと毎日を過ごしていた自分はなんだったのか？

大ママは何事にも余裕で おもしろがって 笑顔で。
こんな風に年を重ねていきたいと思える女性に出会えました。
本当に元気をいただいた感じです。
様々な年代での交流・素敵な出会いと笑顔で過ごせる楽しいひととき。
おやこ劇場らしい企画となりました。

事務局：　藤井 浩子

≪市民文化祭出店≫

◎　2019年10月13日（日）　プラバわくわく広場にて

台風のため1日開催となりましたが、幸いにも13日のみほぼ良いお天気に恵まれたくさんの親子連れさんがわくわく広場で楽しんでくださいました。

カレー屋さん：187食完売！毎年楽しみにしている方も多い美味しいカレーです。松江市役所のNPO研修のお二人が大活躍してくださいました。

朝日白潟雑賀ブロック：串焼き～焼き鳥や豚バラ、おいしいお塩とタレで。市民文化祭で焼きたての焼き鳥が食べれるなんて！美味しかったです。

乃木ブロック：ポップコーンとジュース～ポップコーン作りの技ももう完璧！約100袋あっという間の完売でした。

チョコバナナサークル：コーヒー（チョコ付き）～食事の後はやっぱりホッとするコーナーが喜ばれました。

財政部：フリマとお世話のいらない金魚すくい

子どもサポート部：ストラックアウト～部員さんの子どもたちがお手伝いしてくれて、にぎやかな声が響いてました。出店にご協力いただいた皆様ありがとうございました！売上の中から合計約80,000円超のお寄附をいただきました！来年も楽しみましょう！　事務局；　藤井 浩子

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

財政部は恒例のお世話のいらない金魚すくいとフリマを出店しました。
金魚すくいは小さなお友達も上手にたくさんすくえて笑顔いっぱいでした。
フリマには元会員のご主人手作りの陶器が久しぶりに出品され華を添えてくれました。

両コーナーで120人以上の方に参加いただき大盛況でした！

財政部；　鈴本 紀子

編集後記

今年の秋は〇〇するよ！

子どもが寝ている間に食べるお菓子。
やめられません。食慾の秋だから。（I ）

今年の秋こそ！着なくなった服の整理、使わなくなった物の
片付けをして、すっきりした生活をする！しかし・・・
土日毎にお出かけの予定もありいつやるのか・・・(;∀ ;)（K）

毎晩のゼロトレ、スクワット、かかと落とし。今年の秋こそ
マイナス５キロ！（F２）

今年こそ、きちんと見ごろの紅葉を観たい！（O１）

温泉にのんびりつかりたいなぁ～（F1）

娘と一緒に韓国ドラマを観ようかな～（O2）

近所に「にっこり文庫」ができました。この秋は読書の秋です。（Y）

おやこ劇場松江センター公式ブログも見てね！

例会の情報だけでなく、イベント情報や各ブロックの活動など
続々更新中！
こんなこともやっているんだ！と新しい発見があるかも。

１０月会員数　２３９人

おやこ劇場松江センターへのご支援ありがとうございます！

■賛助会員・協力会員・その他ご寄附いただいた皆さま（順不同）
猪野敏久さま　竹田環枝さま　松尾裕子さま 大島あずみさま　大島　悟さま　瀬島正人さま
安齋由紀さま　石橋洋男さま　三輪利春さま　佐々木明美さま　塩冶朋江さま　牛尾恵利子さま
上志智子さま　上志槙さま　金山明子さま　又賀恒子さま　佐々木弘さま　泉恵子さま
岩成春子さま　神田照子さま　貴谷麻以さま　宮廻晃江さま 宮本洋子さま
株式会社松文オフテックさま　　医療法人ぽよぽよクリニックさま　有限会社島谷建設さま
松江プラザホテルさま　プラバーフットさま　認定NPO法人あしぶえさま　他

子どもたちの豊かな育ちを応援してください！皆さまからの寄附をお願いしております。
※振込の方はこちらをご利用ください。
[郵便振替口座] ０１３００－５－３９３６４　　[山陰合同銀行口座]　本店　普通 3714031
[名義]　特定非営利活動法人おやこ劇場松江センター